

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

小14 町田市立南第四小学校

学力調査等の状況	
R6年度の「全国学力・学習状況調査」では、算数・国語ともに、都や全国を下回り、十分な成果を上げることができなかった。算数は、どの領域も問題も都や全国を下回った。	

見えてきた課題	
中位層が平均より低い傾向が見られるので、学力の全体的な底上げを図る。7月までの単元テストの成績一覧表を作成し、個人面談で保護者に個々の課題を周知する。また学校全体で基礎計算の問題に取り組んでいく「算数がんばろうプリント」の取り組みをする。国語「書くこと」の向上のために、各教科で「書く活動」をしっかりと確保していく。低学年から基礎基本の定着を基盤とした授業を展開すると共に、教科担任制の特色を生かし、高学年の授業の専門性を高め、質の高い授業を展開する。	

授業をデザインする8つの取組について	
ICT機器の活用	大型提示装置やChromebook等を活用し、児童の考えを共有する場面や共同作業に取り組む活動を設ける。
見通しをもたせる導入	児童が主体的に学ぶことができる動機づけをするため、導入を工夫する。
振り返りの設定	学習内容を振り返り、めあてに対する自己評価をしっかりとさせ、学習内容のより確かな定着と主体的に学ぶ態度を育成する。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を高めるために、協働的、探究学習を実施する。 音読をする機会を増やす。量を増やすことで、語のまとまりや文章全体の構成や内容の大体を意識させる。 読書ペンゴや読み聞かせ、本の紹介等、意図的に本に触れる機会を与え、言語感覚を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近なことを表す言葉を増やし、日常生活や話し合い活動で使えるようにする。また、ていねいに書字ができるようにする。 物語文では、音読を重視するとともに、時、場所、登場人物を捉えて、全体を読めるようにする。 説明文で「問い」と「答え」の文を自分で見付けることができるようにし、事柄の順序を考えながら、内容の大体を読めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動を通して、話す事柄の順序を考え、相手に伝わるように話すことができるようにする。 物語文では、音読を重視するとともに、全体を読んだ後、細部を読んで因果関係をとらえて、作品全体をとらえるようにする。 ICT端末のツールを活用し、意見を共有できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動を通して様々な意見を聞き、自分の考えや思いを深める学習を充実させる。 物語文では、音読を重視したり工夫したりするとともに、文章全体と細部を比べながら、主題をとらえることができるようにする。 ICT端末のツールを活用して意見を共有し、意見や感想をもてるようにする。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な見方、考え方を身に付けさせるために、協働的、探究学習を実施する。 様々なグラフや資料を用いて情報を読み取らせ、自ら情報を得る。 学んだ知識や資料を活用して、地理的・社会的な視点で課題を捉える力を養う。 視聴覚教材を活用し、児童自らが資料を取得し、意見を交流できる活動を取り入れる。 スライドやドキュメントを使い、調べたことをまとめ、発表できるようにする。 	<p>(中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 買い物や近所の建物など日常にひそむ「社会科」に関係する事柄に興味をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近にある疑問や問題について、資料やICTを使って情報をまとめる。それをノートに書かせたり、発表させたりする。 都道府県など、知識を深める学習については、児童自身で問題を作り、友達と問題を出し合ったりする話し合いの活動を行うことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 低い土地、温かい気候の土地など、それぞれの特色について学んだあと、それらの課題について、自分自身で学習課題を作る。資料や教科書を使って課題を解決するための方法を考えることができるようにする。 グループでグラフなどの図や表を使って、調べたことをまとめ、学んだことを全体に共有できるようにする。 グループの発表を受けて、疑問に思ったことや改善点などを話し合うことができるようにする。
算数科	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な見方、考え方を身に付けさせ、数学的活用能力を高めるために協働的、探究的学習を実施する。 学年ごとの教材と学習後の診断シートを活用し、前学年までの既習事項のさらなる定着強化を図る。 全学年で少人数グループ授業を展開し、基礎的・基本的な知識の定着を図る。 集団討論の場を設定し、多様な考えに気づき、学びを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容の系統性、単元のねらい、児童の実態を踏まえた指導計画の見直しをする。 一人一人の学びの充実を図り、主体的な学び合いを促す指導の工夫をする。 「がんばろうプリント」の実施状況から、内容の定着度や苦手分野を確認・分析し、学年で共有して補充学習を授業に組み込む。 習熟度別学習、Qubena等の学習コンテンツを活用し基礎的な内容の習熟を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に体験させる授業を通して、数量感覚を身に付けさせ、教を正確に捉えられる指導を取り入れる。 「がんばろうプリント」の内容をより基礎の内容に絞り、全領域で復習できるように再編集し、取り組ませた。その後の定着を診断シート等で確認・分析し、学年共有し、苦手分野の補充を授業に組み込む。 習熟度別学習、Qubenaでのドリル学習を通し、基礎的な内容の習熟を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを書かせる指導、考えを共有する時間の確保など工夫した授業を作る。 問題文から数量関係を捉え立式し、既習事項から解決の手立てを導き出せるような指導を取り入れる。 「がんばろうプリント」の内容をより基礎の内容に絞り、全領域で復習できるように再編集し、取り組ませた。その後の定着を診断シート等で確認・分析し、学年共有し、苦手分野の補充を授業に組み込む。 習熟度別学習、Qubenaでのドリル学習を通し、基礎的な内容の習熟を図る。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験結果を原因や新たな疑問などと関係付ける活動を通して、科学的な思考力・表現力を高める。 問題解決の過程を振り返る時間を確保し、学んだことを生かして深く追及したり、ものづくりをしたりする活動を通して、理科の有用性に気付かせ主体的に学ぶ態度を育てる。 科学的な見方、考え方を身に付けさせるために、協働的、探究学習を実施する。 	<p>(中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りの生物について、色、形、大きさなどの視点に着目して比較し、生き物の特徴を捉えたり、友達の見え目と自分の見え目を比べ、差異点や共通点について比較するために必要なポイントを提示させる。 児童が主体的に取り組めるようにするために、単元の導入で興味をもてるような写真や動画など、事象提示をする。 ICTを活用し、写真や動画を撮り、詳しく調べられるように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験内容を日常生活と結び付け、根拠ある予想や仮説を発想し、共有し合えるようにする。 自分の考えをもった上で実験を行えるよう、施行する時間を確保し、選択肢を設けたり、具体物を用意して考えを深められるようにする。 ICTを上手く活用し、既習事項を踏まえながら思考する時間を確保できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 予想や仮説を設定し、検証に必要な観察・実験を立案させる時間を設定する。活動の中で気付いたことや疑問に思ったことを共有し、問題解決の意欲につながる。 選択肢を設けたり、具体物を用意して考えを深められる時は、必ず考察を書かせる。 ICTを活用し、学習の理解を視覚的に補助したり、学び合いのツールとして活用したりする。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	<ul style="list-style-type: none"> 生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立の基礎を養うために、協働的、探究学習を実施する。 具体的な活動を多く設定し、知的好奇心や探究心を高める。 見通しをもたせる導入を通して、自分と身近な人々、社会及び自然の事象に対する「問い」をもたせ、問いを解決できる学習計画を児童と共に考える。 自分が身近な人々や、社会、自然に対し主体的に関わっていくことができる活動を取り入れ、認め合う・学び合う集団を形成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の生活経験の差が大きいため、グループ活動を取り入れ、それぞれの経験を共有させて課題に取り組みさせる。 児童に身に付けさせる力を意識して、それを育ませるための分かりやすい資料提示(写真や動画など)を用いて視覚的な導入を学年で工夫する。 年間を通じて、見通しをもった単元指導計画を立て、ICTを効果的に活用することにより、考えを広げたりまとめたりすることができるよう、児童一人一人の考えが深められるようにする。 家庭や地域との関わりを通して、地域に興味・関心をもち、様々な相手に自分の思いや願いを表現できる場の設定を工夫する。 		
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> 音楽的な見方・考え方を身に付け、音楽表現へつなげる力を培うため、協働的、探究学習を実施する。 児童が自ら課題を見つけ、主体的に学ぶことができるよう、導入や振り返りを工夫する。ワークシートを活用し児童が学びの積み重ねを実感できるよう指導する。 対話的な学びを通して児童の学びを広げ深めるため、ペアやグループ活動を設定する。 児童が既得の知識や技能を生かしながら学びを深められるよう、系統的な学習指導計画や評価計画を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 身体表現を取り入れた音楽活動を行うことで、曲想と音楽を特徴付けている要素との関わりに気付かせる。 歌唱、鑑賞、器楽、音楽づくりの各領域を関連付け指導することで知識を習得しやすくさせる。 1単位時間や単元ごとで学びの振り返りなどで学びの実感をもたせ、次の学年につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを活用することで、単元の見通しや課題をもたせ学びの積み重ねを実感させる。 ペアやグループなどの協働学習を設定し、互いの表現の良さを認め合い学びを広げていく。 単元の構成を歌唱、器楽、鑑賞、音楽づくりの各領域で計画的に配置し、学習内容の理解がより深まるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用として、各グループの考えや工夫を即時的に全体で共有し、学びを深める。 単元の導入では、全体の見通しがもてるよう視覚的に把握できるよう板書やワークシートを工夫する。 合唱や合奏で協働学習を設定し、互いの表現の良さを認め合い学びを深めていく。
図工科	<ul style="list-style-type: none"> 造形的な見方・考え方を身に付け、表現する力を培うために、協働的、探究学習を実施する。 積極的に自己表現ができるような題材の設定をし、材料の魅力、活動への関心や意欲につなげる。 クラスメイトとの関わりにより、作り出す喜びを味わわせる。 自分の思いや考えをしっかりとち、制作に取り組めるように、個に応じた指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のつくり上げた作品を展示する場を設け、つくり出す喜びを味わわせるようにする。 見通しをもって活動することができるよう、題材の導入の説明的に行う。 児童の知識や技能に応じて、机間指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のつくり上げた作品を発表する場を設け、対話的な学びを進め、つくり出す喜びを味わわせるようにする。 見通しをもって活動することができるよう、ワークシートを活用し、制作イメージを広げられるようにする。 題材に必要な知識を、児童がいつも確認できるように掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な作品を鑑賞する機会を設け、対話的な学びを進め、つくり出す喜びを味わわせるようにする。 見通しをもって活動することができるよう、ワークシートを活用し、より深く制作イメージを広げられるようにする。 題材に必要な知識を、児童がいつも確認できるように掲示する。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 実践的、体験的な活動を通して、生活をよりよくしようとする工夫する資質、能力を育成する。 家族や家庭、衣食住、環境などについて、日常生活に必要な基礎的理解を図るとともに、それらに関わる技能を身に付けるために家庭での調理の宿題や学校での裁縫などの実習の機会を設定する。 児童一人一人が、主体的に学習に取り組めるよう、板書やワークシートを工夫し、課題を解決する力を養う。 自分の周辺に意識が向くような導入を工夫し、意識をもって取り組む児童の育成を図る。 			<ul style="list-style-type: none"> 衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようとする資質・能力を育成するための協働的、探究的学習を実施する。 家庭や家族、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに関わる技能を身に付けるために、調理や実習、ワークシートで一人一人の考えを伝える機会を多く実施する。 児童一人一人が主体的に学習に取り組めるよう、板書やワークシートを工夫し、課題解決する力を養う。 自分の周りの自然環境について身近から考えられる課題を提示する。
体育科	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題、流れ、児童の発表内容、学習のまとめを記録するボードやICTを活用してそれを視覚化し、単元を通しての児童の学習を蓄積する。 運動を通して、気付いたことや学んだことを共有する時間(シェアリング)を設け、すすんで運動し、共に分かち合う心を育む。 学習カードに課題や学んだこと、友達からのアドバイスを記入させ、指導と評価の一体化を図る。 グループ学習を行い、互いのよい動きを見つけ、伝え合うことで、認め合う意識をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなで一緒に運動遊びを楽しむためには工夫が必要だということに気付くようにする。 みんなで楽しく遊べる場や遊び方を工夫したり、伝え合ったりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードの共有を通して、協働的な学びができるようにする。 友達のよい動きを見つけ、伝えたり、友達が抱える課題について一緒に悩んだりすることができるようにする。 友達が何について困っているかが分かり、友達と一緒に活動することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いの技能を高めるために友達の課題を知り、よりよくする方法を伝え合おうとする思いをもてるようにする。 友達の運動を見て、よりよくする方法と一緒に考え、伝え合えるよう時間を確保する。
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> 外国語科を通じた異文化への柔軟な見方、考え方を身に付けさせるために、協働的、探究的な学習を実施する。 高学年では、書くこと・読むことを取り入れ、毎時間繰り返すことで定着を図る。 児童同士や教員とコミュニケーションをとる場を設定し、コミュニケーション能力を育てる。 ICTを活用し、言語だけでなく視覚でも意味を捉えられるようにする。 			<ul style="list-style-type: none"> 書くこと、読むことについての技能を高めるために、毎時間学習を積み重ねられるような工夫をする。 児童同士や教員、ALTとコミュニケーションをとる場を設定し、コミュニケーション能力を育てる。 ICTを活用し、言語だけでなく視覚でも意味を捉えられるようにする。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的に野菜を栽培する体験活動や給食指導、調理実習を通して食育の指導をし、バランスの良い食生活を心掛ける大切さや食物に対する感謝の気持ちを育てる。 ○探究課題解決のためにコンピューターや情報通信ネットワークを活用しプログラミング学習を取り入れたりと、図書室や見つけ発見室を適切かつ有効に活用したりすることができる知識・技能を育成する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習過程を「ふれる・つかむ」「追求する」「まとめる」「生かす・広げる」とし、それぞれの過程の中で、特に思考・判断に関わる活動において、児童の思考を活性化・深化させるような手立てを工夫する。 ・問題や疑問の発見につながるような体験活動を設定し、課題について考えることができるようにする。 ・発表までの過程をイメージして、単元の見直しをもって学習を組み立てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学年と同様に、学習過程を「ふれる・つかむ」「追求する」「まとめる」「生かす・広げる」とし、それぞれの過程の中で、特に思考・判断に関わる活動において、児童の思考を活性化・深化させるような手立てを工夫する。 ・課題づくりでは、実生活に基づいた課題を吟味する視点を設定することで、適切な課題を考えることができるようにする。 ・発表までの過程をイメージして、単元の見直しをもって学習を組み立てていく。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ○思いやりの心を育てる人権尊重の教育を推進し、偏見や差別をなくし、社会の一員としての自覚をもつ子を育てる。 ・話し合いや場面演技など、自分の考えを伝え合う活動を行い、考えを広げる。 ・ICTを活用し、児童の考えを伝えやすくすることで、考えを深める。 ・学級の実態に応じた教材の選択をし、学びを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な資料提示、道徳的価値理解を深めるための発問の工夫を行う。 ・ねらいとする道徳的価値に照らして、自己の見方、考え方を振り返らせることにより、道徳的実践力に結び付けられるようにする。 ・多面的・多角的に考え、伝え、考えをより深める手段として、ICTを活用する。 ・ペアで考えを伝え合い、全体で考えを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な資料提示、道徳的価値理解を深めるための発問の工夫を行う。 ・ねらいとする道徳的価値に照らして、自己の見方、考え方を振り返らせることにより、道徳的実践力に結び付けられるようにする。 ・多面的・多角的に考え、伝え、考えをより深める手段として、ICTを活用する。 ・少人数での意見交換をし、全体で考えを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な資料提示、道徳的価値理解を深めるための発問の工夫を行う。 ・ねらいとする道徳的価値に照らして、自己の見方、考え方を振り返らせることにより、道徳的実践力に結び付けられるようにする。 ・多面的・多角的に考えたり、伝えたりするためにアンケート機能や振り返り機能を活用し、考えをより深められるようにする。 ・友達との意見交流を通して自分の立場について明確にし、自分事として考えられるようにする。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ○委員会活動の充実を図り、集団の一員としての自らの役割を自覚し、主体的に活動しようとする実践的な態度を育てる。 ○学級会などの話し合い活動を通して集団活動の基礎基本を身に付け、お互いのよさを認め合い、みんなのために働く喜びが分かる子供を育てる。 ○全学年特別支援学級や異学年との交流活動を設定し、誰とでも仲良く協力して、豊かな生活を築く態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たてわり班活動、児童集会活動を通して、互いに尊重し合い、協力し、より良い関係を築こうとする。 ・学期や行事ごとにめあてを立て、振り返りを行う。 ・学級会を中心とした学級活動から、話し合いの経験を通して、自分達で決めることが、達成感や充実感につながることを理解させる。 ・係・当番活動では、責任をもって取り組むことや、互いを認め合う雰囲気や大切にすることで自分から行動してみようとする意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会を行うことで、話し合いの流れを確認し、見直しをもって話し合い活動ができるようにする。 ・係・当番活動の充実を図るために、互いに協力して計画したり、主体的に取り組んだりする態度を育てる。 ・高学年の委員会やクラブ活動、たてわり班活動から、上級生がどのような活動をしているかを知り、感謝の気持ちを持ち、自分たちが高学年になるに向けて活躍しようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、クラブ・委員会活動を通して、学校の中心的な役割を担う「リーダー」としての経験を積みながら、最上級生としての役割が果たせるよう事前準備や振り返りの時間を十分確保する。 ・たてわり班活動を通して、仕事のやりがいを感じ、自覚と責任をもてるような環境を整え、異学年交流の活性化を図る。 ・学級の課題に対し、協力したり、互いを尊重し合いながら、話し合いを行える活動を取り入れていく。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語活動を通じた異文化への柔軟な見方、考え方を身に付けさせるために、協働的、探究学習を実施する。 ・低学年から高学年まで授業の同じ流れを作り、学習内容の定着を促進する。 ・中学年では、話すこと・聞くことを中心にALTと共同して授業を実践する。 ・児童同士や教員とコミュニケーションをとる場を設定し、コミュニケーション能力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士や教員とコミュニケーションをとる場を設定し、コミュニケーション能力を育てる。 ・外国語を聞くこと、話すことを中心にして、外国語に慣れ親しむようにする。 ・イラストや映像等、視覚的にも理解を促す手立てをするために、ICTや絵本等の教材を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士や教員とコミュニケーションをとる場を設定し、コミュニケーション能力を育てる。 ・外国語を聞くこと、話すことを中心にして、外国語に慣れ親しむとともに、外国語で表現したり、伝え合ったりする楽しさを感じられるようにする。 	